# 議会報告会実施報告書

| | | | |
|---|---|---|---|
| 開催日時 | 平成３０年１１月１２日（月）　１９時００分～２１時００分 | | |
| 開催場所 | ゆとろ | 出席者 | ２８名 |
| 出席議員 | 山﨑議運副委員長・髙谷議員・石川議員・山田議員・鈴木議員・五十嵐議員・佐藤議員・後藤議長 | | |

◎山﨑議運副委員長開会

◎後藤議長挨拶

○（後藤議長）第 12 回の議会報告会にこのように大勢の方にお集まりいただきありがとうございます。今回は団体の皆さまにお集まりをいただいて、農業と商工業について色々ご意見を頂こうということで、今日は商工業、あるいは町づくりという面で意見交換をさせていただきたいという主旨で報告会を開催させていただきます。今、当別町は宮司町長が２期目の２年目迎え、昨年４月から始まった小中一貫教育のその箱の部分について、これから小中一貫校を建てて、特色のある教育を目指して、他所から人が来ていただけるような政策をしていきたいということで、９月の定例会で色々議論があり、今後、来年の春に向けて設計というかたちで進んで行く。今日、何人かお集まりいただいてるが、小学校、中学校の PTA の方とか、色んな方から意見を頂いた。議会としても皆さんの意見を反映させるかたちで、教育委員会、町長部局と議論をしているところだが、町づくりについては住民参加と叫ばれて久しいが、なかなか行政の思惑と住民の皆さんの思うところの接点が大きくかい離をしていたり、それを対話によって縮めることができていると思うが、まだまだ足りないのではと思っている。議会としては、数年前からこの報告会を通じで、皆さんの意見を頂く中で、議会として行政にものを申していこうということで始まった。冒頭で報告があるが、議会がどういうことを行っているかということを理解をしていただいた上で、町づくりに参画をするという意識で意見交換をさせていただければと思う。今はどこの自治体も人口の減少と少子化、高齢化という課題を持っている。当別町もここ 12、3 年人口が減っており、歯止めがかかっていない。町長部局は色々な政策を立案をし実施をしているが、予算が伴うので、優先度を行政が考える中で、わたくしどもがこれを行って欲しいと思っても、その優先度が上位に来ないという現状もある。皆さんから色々と意見を頂く中で、町づくり、教育、福祉について意見を頂く中で、議会としての優先度がどうあるべきか、ということも協議していきたいと思っている。ふるさと納税で昨年は５億円を集めたが、返礼品見直しの通達もあり、災害もあり、若干減っている状況にもある。依然に比べると自由に使える財源を確保しつつ、小中一貫教育や大胆な事業を行うというが少しずつできている。一番懸念しているのが、役場庁舎の建て替えである。震度４の直下型の地震が来ると庁舎が潰れるということで、行政としても、民間の活力を使う中で、国補助を利用しつつ、町の貯金はなるべく使わないで、やる方法はないか検討しているが、なかなか民間との融合がうまくいかないという部分もある。住んでいる人たちができることをやって、共に持続可能な町として推進をしている。そういうことが求めれられているのではと思っている。今日は商工

会の方を中心に来て頂いているが、忌憚のない意見を頂く中で、どうやったらこれまで以上の町の運営ができるかということを共に考えさせていただきたいと思う。

出席議員自己紹介

◎６月議会報告

五十嵐議員

◎９月議会報告

佐藤議員

◎懇談

○（議会）テーマは商工業の現状と課題、あるいは将来に向かって賑わい、儲かる町にするために、元気な町にいかにするか、ということで忌憚のない意見を頂きたいと思う。きっかけとして、道の駅ができて、ちょうど１年が経過し４月から１０月末まで、６１万６０００人入場し、売り上げで３億３６００万円だった。昨年９月からは約９２万人、売り上げは４億８０００万円だった。今日商工会の関係で、道の駅と関わりのある方がいると思いますが、現状、今後こういう風にしてほしいという意見があれば、お聞きしたいと思う。

○（町民）道の駅は防災拠点としての指定になっていると思うが、自家発電などの設備がないということは聞いていたが、今後、自家発電設備などはこれから進んでいくのか。

○（議会）これから自家発電の設備については、必要になってくると思うので、議会としても要望というかたちに持っていきたいと思う。

○（議会）９月議会で、道の駅は避難場所になっているが、地震で、水が出なくなって西当別コミセンへ案内したと聞いている。今後、避難場所としての役割をきっちりと果たすような態勢にしてほしいという質問を議員がしている。

○（町民）売り上げや入場者数の話があったが、売り上げだけを見るだけではなくて、どれだけの収益が上がっているのか、利益がどれだけ上がっているのか、を見てほしいと思っている。会社を維持していく以上、売り上げ至上主義というよりは利益がどうなっているのかというところが、一番大事であると思っている。道の駅が好調であるという雰囲気が流れているので、実態はそうでない部分もあるのではないかと思っている。要望として、道の駅をなぜ作ったのかという原点に帰っていただきたいと思っている。道の駅を情報の発信の基地として、あるいは観光拠点として、そこから町に周遊してもらうというところが本来の目的ではなかったのかなと。当初商工会の中でも委員会を設けて、色々とアイディアを出してやってきたが、今のところ効果はあまりあがっていない。ただこれは、継続的にアイディアを出して粘り強く取り組む必要があるのではないかと思うので、商工会としてもアイディアを出していきたいと思っている。議会でも予算措置を含め、ご協力を頂ければありがたいと思っている。

○（議会）１１１店舗が参加した、とうべつまちなかスタンプラリーについて、これの成果はどうだったのか。

○（町民）あっという間にスタンプラリーの枠が無くなってしまった。広く成果が出る前に、同じ人が買ってしまい終わってしまったというのが実情である。今後、同じようなイベントをやる場合は一考しなければいけないという反省点があった。
○（議会）道の駅から変わって、他の話題で、現状の課題、問題点が何かあればお聞きしたい。。
○（町民）道の駅について、利用者が新聞によると予想外の集客という報道があった。実際、働いている人間として、利益があったのか。ただ見に来るだけの人も含まれているのか。道の駅を運営していく上で厳しいのかなというのは見てて感じる。横に建っているスウェーデンハウスがあるが、先ほどの説明では何に使われるのかわからなかった。
○（議会）スウェーデンの情報発信の場所として使われる予定である。
○（町民）スウェーデンのガラス工芸を展示する場所とかと聞いていたが、ある人は事務所として使うとか言っていたし、人から色々と聞かれるが、何に使われるかよく伝わっていないと思う。これから冬に向かって、お客さんは激減する。現在、テルツィーナで働いているが、食事にいらっしゃる方とか人数だけでは各店舗の売り上げが伸びたとかあまり期待できていないと感じている。これから冬に向かっての集客方法はどう考えているのか。
○（議会）この建物について、一般質問で町長の答弁は北欧のイメージの定着に向けて、レクサンド市、スウェーデンヒルズ等の情報発信を想定している。会議室、多目的ホールは視察の受け入れやこちらからも提案している若い方と高齢者の懇談の場所にするとか、という目的で有効に使うことの提案をしているし、そういったことを検討しているということであった。来年６月オープンだが、今の意見も踏まえながら報告したいと思う。建物はスウェーデンハウスから寄贈されるが、建物の管理はこちら側で行うことになる。利用については十分議論して有効に使うようにしたいと思う。
○（議会）さきほど説明したスウェーデン館の補正の金額は、道の駅から建物につながる外溝工事の金額である。建物の建設費の金額ではない。
○（町民）町内で飲食店、特に喫茶店が、人口が減っている中、次々と喫茶店ができているが、このことについて、町は関わっているのか。町民の求めているものは違うのではないかと。３割が高齢者なのに喫茶店ばかりできても需要とニーズのバランスが取れていないような感じがするが、町は関わっていないと思うが、どう考えているのか。住民のニーズ、年齢に合わせたものができないものか。新しくできたある店舗に行ったら、メニューの文字が小さく、メニューが我々の年齢層からすると、コーヒーでも色んなバリエーションがあったり、なじんだものができているのかと疑問に思うことがある。
○（議会）新たに２店ほどリフォームして、喫茶店を開いているが町が指導をしているわけではなく、あくまで民間が行っている。空き家を再利用し、地域のお年寄りなどのコミュニケーションが取れる場をコンセプトとして建てていると聞いている。
○（議会）今、言われたことは町づくりにとって大事なことだと思う。実際に住んで感じることはあると思う。喫茶店の話が出たが、これだけ喫茶店が多くなって、人口

が減っていくのに大丈夫なのかという心配もあると思うし、それであれば、別な店舗を作ってほしいという要望もあると思う。しかし、説明があったように行政が民間の事業に対して指導をしているわけでもなく、民間が自発的に行う経済の話である。ただ、そうなるかというとおそらく行政が当別商店街をどうするのかというリードするというか、例えば焼き鳥屋なくなり、そういった業種を維持するために民間の人と協力をして何かをするなど先導することなどはあってもいいと思う。今日は商工会や建設協会、観光協会の方など来られているが、自分たちの町をどうするのかということを考えていくということが必要なのではないかと思っている。医療の関係については、行政はタッチはできるが、商店街については、直接タッチすることはできないので、結果的に商工会と協議をするということに今までなっている。今、いい事例を出して頂いたと思うが、皆さんと町がどう協力したらいい商店街がを作れるか、魅力ある町になるか、などそういった議論の意見交換を行いたいと思って、今日はやっているので、知恵を出し合う意見交換ができればと思う。道の駅について、建物は町が作って、ｔｏｂｅが経営をしている。ｔｏｂｅの経営に直接町が手を付けることはできない。議会は町からお金が出ているので、決算の報告を受けて、それに対して意見を言うことはできるが、それ以上のことはできない。ｔｏｂｅの役員は商工会長、農協からの代表、金融協会から出ている代表の方が役員として入っている。町としては担当の部署があるが、経営の内容までは言えない立場にある。施設をどう充実させるか、そういったことは町として予算が伴うので、議会で議論ができる。今行っている経営について、町や議会が直接言うことができない。ただ副町長がｔｏｂｅの社長なので、しっかりと目を光らしている状況にあると思う。実態をどう掴むかは、上がってきた報告書を見るしかない。中にいる方は、その数字が適正かどうかわかるのかもしれないが、正式に報告が町に上がり、報告書が議会に来ることになるので、チェックをするにも限界があることをご理解いただきたい。今後、議会としてもｔｏｂｅの運営について直接言えないが、町が関わっている事業なので、皆さんからの要望を議会としてまとめて、それをｔｏｂｅに町を通じて、要請をしていくことはしたいと思っている。

○（議会）町づくりについて、現状どのような問題があるのか。あればお聞きしたい。

○（町民）ｔｏｂｅに関して、今、ｔｏｂｅは町長がやっているということが見えてしまって、ｔｏｂｅはまだ自立していないという風にしか見えない。町が支えながらやっているというか、面倒を見ているという町が主導権を握り過ぎているように感じる。本通りの問題点について、空き地、空き店舗が増えており、廃業もかなりある。建物も古く、貸せる状態にするまでが大変である。大家もお金をかけて、空き店舗を人に貸せる状態にできるかというとなかなか難しく、借りてくれるかどうかもわからないというのが現状である。議員さんからももっとこうしたらいいのではというアイディア、感想、助言でもあればお聞かせ願いたい。

○（議会）ｔｏｂｅが自立するようにといったところはそのまま報告したいと思う。本通りの賑わいについては議員から。

○（議会）ｔｏｂｅの株主がこの中にもいらっしゃると思うが、株主総会で、発言権があるので、株主の人たちが言っていくことも必要と思っている。空き店舗について、

一般質問でこれから、空き家対策協議会を作るということを町長が言っていたが、今後、空き店舗対策の計画を作ってから、少しづづ商店街と連携を取りながらやっていくと思う。議会としても町へ要望していくつもりである。
○（議会）先ほどの喫茶店の発言で、２つ開いたどちらかの喫茶店に行かれたと思うが、見て自分たちが何かしっくりとこないといったときに、じゃあ仲間と一緒に作ったらもっといいものができるのではというかたちで始めていくかたちも色々な所で行われている。町民もまちづくり株式会社というのをやっているが、そういうところとコラボしながら、自分たちの作りたい店を作っていくという方向もあるのではと思う。白樺にできた喫茶店も隠れ家になったようなエリアを作って、あれなら行こうかという人もいるかもしれない。それぞれの人たちが自分たちが感じられるような、時間の使い方ができるような、時間がゆっくり流れるような、そういう店を作りたいという方が、町の中から出てくるということが尊いかなと思っている。空き家になって、スカスカになって大変だというよりは、そういう目で、何かできないかという目で見てもらうと面白いところが出てきているのではと前向きに考えていきたいと思っている。ｔｏｂｅについて、町としても副町長を派遣できないようなかたちになってもらうことを目標としていると思う。今あるかたちが、守らなければいけないかたちではない。
○（議会）９月の総務文教常任委員会で、言ったことは、ｔｏｂｅの運営について、役場が熟知しすぎていて、色々と手を出しているというか、それはどうなのかという話をした。ｔｏｂｅの役員がしっかりと役員会の中で処理をしていただくということが株主にとってもいいことであると客観的に思っている。議会としてやらなければならないことがあれば、議長としてやらなければならないことがあれば、しっかりとやっていきたいと思っている。今、一部の方かもしれないが、懸念されていることは聞いている。今後、しっかりとｔｏｂｅが経営ができるようなかたちに１日でも早くしたいと思っている。
○（議会）話題を変えて、人口減少の件について、１１月１日の当別町の人口は１６１２０名である。世帯数は７６６５である。ピークより、４７５５名減少している。石狩管内の市町村で一番多い。当別地区が１００５９名、太美地区が５０６１名である。ピーク時から当別地区は４１５６名減少、太美地区は４１６名の減少になっている。今後、出生数も５０名前後、移住など我々議員も行政へ質問や提案などしていきたいと思っているが、こういう人口の中で、商店街などに少なからず影響が出ていると思う。これをどのようにしたら、人口の維持、増加につながるか。意見があれば伺いたい。
○（町民）当別に限らずどこも少子高齢化による人口減少は否めないところである。それによる商店街もどんどん疲弊していって、６時になると商店街は真っ暗になっているのが現状である。商工会と当別町と金融協会で毎年、金融委員会を行っており、当別町も町長も含め経済部の方が出ている。当別小学校が小中一貫校で、当別中学校に移転することになった場合、当別小学校の土地の利用はどうするのかという質問をしたが、町長は皆さんで考えてほしいということを言っていた。商工会は３９９社あったのが、２７６社まで減っていて、これではだめだということで、１０月を加入増

強月間と銘打って、役職員一同で当別町の商工会に入っていない企業を隈なく周り、結果１１社入っていただいた。これで商工会の基盤が良くなっていくと期待している。商店街も建物が老朽化し、使用するにも大変な状況なところばかりだが、当別で仕事がしたいということで、他所から会社を呼ぶなどしたときに、小学校を利用するということになれば、投資も少なくなるし、町に人を呼べるのではないかということを話した。今日は北海道医療大学との懇談もあり、副会長は、別なかたちということで、小学校を北海道医療大学のサテライトキャンパスにしてはどうかという意見も出した。小学校の跡地利用はそういったところがカギになるのではと思っている。
○（議会）平成３４年には小中一体型の学校を作るということで、今は基本設計の段階である。今の小学校の利用について、プールはそのまま使うことになっているが、それ以外は決まっていない。一体型について、現状の説明を委員長から。
○（議会）小中一体型の校舎については、基本構想が終わって、基本設計に取り組んでおり、これからプロポーザルが行われるという状況である。７社がプロポーザルに参加で、公開のプレゼンテーションを行い、基本設計の業者が決まる。場所については、構想では当別中学校に建てるということになっている。候補地も５か所ほどあったが、予算や立地などで、構想の中では現中学校のところになっている。プレゼンを見てもらえれば、どのような基本設計になってくるのかというのが出てくると思う。今までの小学校の校舎をどう使うかは、公共施設の関係で、当別小学校も築４８年経っているということで、耐震はしているが、跡地利用についてはまだ決まっていない。要望があれば議会に言っていただければと思う。これから当別小学校だけではなくて、公共施設が築５０年近くになってくるということで、公共施設あり方検討特別委員会の中で、計画を立てるということになっている。
○（議会）公共施設あり方検討特別委員会副委員長に、現在の状況を報告を。
○（議会）１０月に美唄市と鷹栖町に視察に行った。美唄市では市立病院の建て替えがあって、どう国からお金を持ってくるかということで、立地適正化計画を急いで作る。鷹栖町はコミュニティセンターの建て替えの時期になり、これも急いで計画を立て、提出をした。立地適正化計画ということで、人口が減少していく中で、持続可能なまちづくりをどうするのかと、よく耳にするのがコンパクトシティということで、分散している地域をどうしていくのかということで、国は過去は郊外型を推進していたが、高齢化でこれでは持続できないということで、できるだけ中心街に密集させ、誘導していくということで、立地適正化計画を出してきた。本通りの話があったが、強制的にできないけど、１０年、２０年の先を見通してどういう町づくりをしていくか、住んでいる方々が真剣に考えていくということが、これまでも真剣に考えていたと思うが、それに対して、国は立地適正化計画ということで予算を配分するということになっている。美唄は病院が老朽化したので中心街に建て替えをする。皆さんが頑張って知恵を出してきたことに対して国は支援するというのが立地適正化計画ではないのかというのが視察に行って、思ったことである。わたしは移住して１０年経つが、中には田園暮らしをしたいという人、子育てをしたいという人がいるので、大自然を活かした特徴ある町づくりをアピールをし、立地適正化計画を含めて、補助を使う。当別の立地適正化計画は再来年に向けて、進めているところである。

○（議会）小中一貫校ができた後の当別小学校の利用方法、サテライトの件、外部からの企業誘致などの話があったが、ストレートに報告するがどういう利用方法があるのか、我々も考えてみたいと思う。
○（町民）企業の誘致について、北海道にまだイケアはないので、誘致の枠というのがあればぜひイケアを入れてはどうか。若い人はイケアを利用していると思う。
○（議会）イケアについては、道の駅を作るにあたってかなり誘致について交渉をしたそうだが、ホールの机や椅子はイケアの商品だが、まだ誘致には至っていない。意見があったことは伝えたい。
○（町民）１０数年前から都市計画道路を凍結している。都市計画道路を決定するにあたって、色んな制約を地権者にしているはずだが、将来を見込んで、未着手があと１０数本残っているので、１本でも２本でも効果のある道路であれば実施してほしい。
○（議会）少なくとも１本だけでも、中央通りの先、元町に抜ける道の道路でもやってくれないかと要望しているが、実現していない。これから立地適正化計画の関係と絡めて、都市計画も進めており、引き続き、敷地に規制がかかっている、都市計画区域なので自由に建物が建てられないという規制があり、周辺の住民が不便を感じているということなので、引き続き議会としても未着手の路線についても着手するよう要望していきたい。
○（議会）観光協会の会長が来られているので一言お願いする。
○（町民）先般、観光協会は５０周年を迎え、記念式典を開催し、多くの方に来ていただき、お礼を申し上げる次第である。観光協会の現状として、観光協会は町に人を呼び込む、当別町も同じ考えで取り組んでいるところである。観光協会は、各種祭りの支援など限られたことしかやっていないのが実態である。今年から町に電動の自転車が寄贈されたことから、フィーカでレンタルサイクルを実施をした。初年度ということで、借りる時に２０００円を預かり、返却時に２０００円をお返しをすると、無料のレンタルサイクル事業を行った。結果、利用者は１００人に満たないのではというところである。道の駅ができて、お客さんは集まっているが、観光に結びついているのかというと決して結びついてないのが実態なのではないかと思っている。観光協会の課題は何かということになると、道の駅の開業を契機に、観光のお客さんが増えているのは間違いないので、当別町の色んな観光資源を使って、町外からの誘客、あるいは町内の周遊促進を図ることが最大の課題、重要なことではないかと思う。しかし、それらの取り組みを行う中で、観光の推進体制の充実、体制が整っていないのが一番の観光協会の問題かなと思っている。私が会長に２６年５月から今日まで務めているが、観光協会のあり方についての検討会を２７年１月から２８年暮れまでやった。色んな提言を町長などにさせていただいたが、結果的に、そういうことをやったということで終わっている。ｔｏｂｅの方にも観光協会の役員に入ってもらっているが、会議の中ではまだそういう話は出てきていない。これから当別町は道の駅を中心に当別町の観光資源を活用して、どのように当別町をＰＲし、近隣から当別町に来てもらうことができるかが最大の課題と思っているので、議会の皆様方にも検討していただいて、観光協会に提言いただければと思う。

○（議会）５０周年事業の企画で、ビデオを作成していると思うが、いつ頃の完成になるのか。
○（町民）当別をプロモーションするビデオを製作中で、来年の９月か１０月くらいには完成の予定で、９０秒くらいのを４種類作る予定である。
○（議会）森林組合の組合長も来られているので一言お願いをする。
○（町民）先日、北海道森林管理局長の講演会があったが、人類が増加してから森林が非常に荒廃していった。色んな燃料として、木材が燃料源であったことは広く示されている。日本は昭和３９年から木材の輸入自由化を解禁したこともあり、国内の木材資源が豊富になった。局長が言っていたのは色々と制度改正が行われているが、５年ごとのできがアンバランスである。このバランスをとっていかないと将来、大変なことになると。森林資源は地域にとっても重要な環境財ということを強く言っていたので、私もそう思って、５０年の長期プランを立てているが、当別町は２度に渡って、森林が投機の対象になっていた。所有者にたどり着くのも難しいというのが多くて、森林台帳の整備が急がれているが、予算の都合上進まない。環境税の創設に伴って、色んな職権が豊富に与えられるが、そもそも台帳が整備されてなければ、そこにも移れない。投機目的化した森林で、当別町にも森林の売却に伴う税収などで豊かな財源に恵まれた時期があったかと思うが、今日における森林の整備にあるいは、多くの町民の皆さんも森林を保有してぜひ、森林組合に管理を委託してもらいたいと思っている。森林組合は色んな補助の財源で経営を行ってきたが、現在は組合員に対しての施業に対しての道、町の補助金で６００万が入るが、６００万円の補助を使う事業は制約は高く、費用対効果から考えたら、苦しいところである。先般の講演会はについては高く感謝申し上げる。
○（議会）先日、議会で森林の講演会を行ったが、木材をどのように売るか、マーケティングについて参考になった。JC からも一言をお願いしたい。
○（町民）小中一貫校について、以前教育委員会主催で、どういう建物を建てていったらいいかという意見をいただいたときに、議会の方は、当別町の子どもたちが１０年後２０年後、どういう子どもたちに触ってほしいというのを、明確にビジョンを描いた上で校舎を建てる計画をしているのか。先日、同級生のお母さん方に会ったときに、夕張は英語教育に特化しており、子ども一人に対し、インターネットを使って、ネイティブのアメリカ人とマンツーマンで英会話授業を行っている。英会話を英語教育に特化するのであれば、そういうところに子どもを移住をさせてもいいという話も聞く。子育て世代の方が、英語教育に特化したところに行きたいのであればそういうところに行く。当別でしかできない教育を進めるという考えがあるのであれば、校舎づくりにも活かしてもらえればと思うが、何かそういうものはあるのか。
○（議会）多少誤解があるように思えるが、教育委員会が立てたのは、基本構想で当別町の子どもはどんな子どもにするかという理念である。その理念に基づいたら学級数はこのかたち、先生の人数はこのくらい、という大まかなものまでが決まったものである。どんな建物、どこに建てるかはひとつも決まっていない。教育委員会がまとめる構想はこういうかたちで皆さんで提案をするというのは公表されているが、これに我々の意見は何も入っていない。一般の方の意見は１回聞いており、その中で作っ

たのが基本構想である。これをきちっとしたかたちにするのにどのくらいの予算が必要かも含めて、町民に示すために基本計画というのをプロポーザルをかけて、これから提案をしていくということになる。町の財政からいうと今の中学校の場所に建て替えるのが最も安い、議会の中でなぜその場所がいいのかたくさん議論を行った。色んな意見を聞いたけど教育委員会としては、今の中学校の場所に建てるのが最も良いということになった。構想には絵もあったが、４階建ての四角い建物だったが、それはまったくのイメージで、そういうものを建てるということも決まっていないし、決まっているのは、その中に入る人数と教師の数、カリキュラムの立て方、目指していく子どもたちの育て方みたいなものが大まかに構想として決まったものである。今、言われたもっと当別らしいもの入れるということは、これから皆さんがどんどん話をしていき。また選挙もあるので、どんどん議員に言ってもらう、そういうことはあるのではと思っているので、投げかけてもらえればと思っている。

○（議会）教育長は４００人の児童、生徒が入る学校を考えているというくらいで、個々の内容については、まったく議論をしていない状況である。これから皆さんからの意見や我々の意見を言って、国内でも有数な学校になるようにしていかなければいけないと思っている。

○（町民）小中一貫校の話を聞いているとまどろっこしいなという印象が民間から見るとある。行政はまどろっこしいし、スピード感がない、遅い、まだ小中一貫教育ということで、まだその辺か、今頃そんな感じなのか、ぼやっとした感じで小中一貫は走ったんだという印象で、まだしっかりできていないのかという、もうちょっと細かいところが決まってていいのでは。何のために小中一貫をやろうとしたのかという印象である。議員の皆さんも行政に対して、スピード感をもって対応していただければと思う。

○（議会）スピード感がないということ、これも報告したいと思う。

○（議会）昨年から小中一貫校ということで、コミュニティスクールなどで色々協議をしながら、当別町の子どもたちをどうするのかということでやっているが、スピード感を持ってというのは要望しておく。

○（議会）昨年の４月から小中一貫教育は始まっている。教育の目標などはすでに決まっていて、それを新たに建てる校舎にどう落とし込むかということについて、まだこれからという意味である。議会の中でも今回建てる一体型の学校について、どうあったらいいかという議論も議会の中でしている。今、基本構想に基づいて、基本設計を来年の春過ぎまでに行うということで、プロポーザルが２６日に公開で行われ、７社の設計が出てくる。それを見て、教育委員会としてどれがベストかということを今後検討会で検討していく。教育の中身、どういう子どもに育てるかという理念は決まっている。ただ、それを学校としてどう落とし込んでいくかという作業を今しているところである。

○（町民）今年阿蘇公園に遊具ができたが、鉄棒やブランコの下に水たまりができていた。今年孫が遊びに来たが、連れていったのは太美のあいあい公園だった。今年、阿蘇公園に設置されたが、組み立てたのが置かれて、孫が遊びに行ったら、滑り台の下がザラザラしていて、子どもが遊ぶには不安定な地面だった。遊具を置いただけと

いう結果になったような感じだった。人口減の要因の原因は町でも掴んでいると思うが、そこを極めないと、ニュースで、町内に遊具をたくさん作った町長がいて、それによって家族を呼び込めたというのを見たが、なぜ人口が増えないのか、なぜ人口が減っているのか。当別町のキャッチコピーはゆとりっち、美しいまち、今は死語に近いかもしれないが、そういうことを活かしたことを基本に皆さんは忘れてはいないかと思っている。人口減の要因は何か。
○（議会）阿蘇公園の遊具については、今まで当別町で教育や子育ての部分に対する投資は限られていたと思っている。その中で非常に大きな一歩であったと思っている。できた遊具の地面を見たときはびっくりした。担当の方と話をしたが、あれはダスト舗装というスタイルで、公園の中では一般的な施工方法である。コストや耐久性の面から考えると標準的であるということだった。遊具はあれだけでは足りないし、子どもの遊び場としてはまだまだ機能としては、もっと考えていかないといけないと思う。人口減少の要因だが、要因はこれであると議会として結論がある、また当別町として人口減少の要因はこれであるということを明確になっているとは理解していないので、個人的な考えだが、何かひとつを要因にすることは難しい。様々なことが重なっているし、日本全体の人口が減っているという話もあるが、当別町の人口の減り方はそれよりもはるかに速いスピードなので、当別特有の課題は確実にあると思う。ひとつ大きい流れでいくと、太美地区が増えて２万人になったとき、その前からの人口推移を見ていると減少の波が一緒である。同じ波がきて、太美地区が広がって、２万人になって、また同じ角度で減っているので、最近何か良くないことが起きたから人口が減っているというよりは、過去長い間にわたって、当別町の人口が減る流れにある中で、太美地区の開発によって、１回盛り返したけど、また減っていくというのが現状であると思う。子どもの数が急激に減っていて、人口が１万６千強だが、太美地区が開発する前の当別は、１万６千人くらい人口があったときは、子どもの数は今の倍以上なので、同じ人口に対して子どもの数が非常に減っている。直近の子ども数が減ったのは１００人台から６０人台に落ちたのは数年前である。そのとき当別で何があったかというと、ダムの工事等が終わり、建設業者が引き上げたが、その前後で子どもの生まれた数が大きく減った。地域の経済と子どもの生まれる数は連携していると思う。ただ、子どもの数と人口の数が完全にリンクをしているわけではないので、子どもの数が少なくて、もしくは子育て世代が少なくなってしまったから当別の人口が減ったと簡単にいうことはできないと思っている。子育て世代、子どもの数というのは非常に重要なポイントで、そこは必ず増やしていかなければいけないと思っている。
○（町民）なぜ減っているのか、ピンポイントで答えてほしい。
○（議会）これをやれば人口が増えるというものは存在しないと思う。ある一つの政策をやれば必ず人口増えるというのは、なかなか難しいと思っている。ただ、全国にも人口が増えている事例もあるし、北海道でそれほど人口が減っていない事例でいうと、旭川市の隣の東川町、東神楽町、帯広市の近くに芽室町があり、函館市だと、北斗市や七飯町があり、大都市の近郊でかなりこだわった政策を打っている町はまだまだ人口が増えるか、減るスピードがかなり少ない可能性がある。そういう町と比べた

ときに当別町は強い特色を打ち出しているかといえば、まだ打ち出せていないと思っている。
○（議会）人口の増減は社会減と自然減があるが、当別町は自然減、当別町は子どものピークが２０年前は２５０人くらい生まれていたが、今は５０から６０人くらい、死亡者が１８０人くらい。
○（町民）人口が減るということは、定住してくれないからでは。
○（議会）社会減に転入、転出があるが、現状は転出の方が多い。１１月１日現在、１６１２０人いるが、学生が１０００人いる。当別町の初産の、お子さんが生まれる年齢が分析すると高いので、二人目が難しいということで、年間５０人なっているということも一つの要因である。外から呼び込む、教育、子育て世代に対してもっと力を入れていくということも必要になってくるのではと思っている。
○（町民）住みやすい町であれば、定住して、子どもを生み育ててくれる、自然の流れ、節理が生まれてくると思う。少子化や、出入りが、というだけでなく、定住してもらうことが人口増の一番の基本だと思う。住みやすい町が当別町の売りだと思う。住みやすく穏やかに人生を送れる町も一つの売りだと思う。その辺に視点、考えがずれているような、もう少し定住するための意味合いを考えていただければと思う。
○（議会）特に情報発信、当別町は住みやすい、教育のレベルも非常に上がってきている。土地の値段も安く、JR の本数も増え、札幌へも出やすい。除排雪も非常にいい。皆さん方も情報発信をして、少しでも定住することと、呼び込むこともこの機会にみんなで考えようではありませんか。
○（町民）今年の４月までに当別町商工会地域において、中小企業を含めた条例を制定しているところが５７か所、うち小規模企業に特化した条例を制定しているのが１２か所、未制定が９４か所である。小規模企業振興基本法第７条で、地方公共団体において、小規模事業の振興に関する施策を策定、実施する責務があるとなっているので、当別町も早く制定されるようお願いをしたい。オール当別で中央要望で監督官庁にお願いをしたが、なかなか農業と違って補助金がもらえない商工業において、小規模企業者持続化補助金というのがあるが、申請し当たればもらえるが、それの予算確保と上限額の拡充ということで、現行事業費の2/3で上限が５０万円までだが、できれば上限を１００万円まで上げてもらえれば、１５０万円まで事業ができる。商工業者の切なる願いだと聞いている。また伴走型小規模事業者支援推進事業については、国から軽減発達支援計画の認定を受けて取り組んでいるので、講師派遣や経営に関することで、有効に使わさせていただくので、当別町議会としてもぜひ監督官庁の後押し、支援をお願いしたいと思う。
○（議会）要望ということで伝える。今日は色々な団体から貴重な意見、要望をいただき、ありがとうございます。当別町が元気で儲かる町に、みんなでやらないといけない。議員、行政に対し、意見があれば言っていただければと思う。

◎閉会（髙谷議員）今回は町づくりの話がテーマになったが、高度成長の時代というのは、どんな店を作っても流行る。つぶれても新しい店ができ、何をやっても儲かる時代は確かにあった。しかし、今が現実的に現在のようなかたちになっていったら、

社会が望んでいる時代がこういう時代だという流れの中で、町が作って、自分たちが考えて作ったわけではない。そういう流れでできた町を、これからは自分たちの住みやすい町を自分たちで作っていくことが始まるのではと思っている。昨年４月から当別町は分離型の小中一貫を始めている。これを一体型にすることによって、その効果はもっと上がるということを教育委員会は自信をもって、今回の基本構想を立ち上げた。でも私は基本的に、できれば当別の本町地区だけではなく、太美地区にも一緒小中一貫校をできないかということをあきらめずに考えていきたいと思っている。自分たちの子どもたちが行きやすい、そういう町を一人一人が自分のペースで考えて、そしてひとつでも政策にしていく、そういう皆さんの意見をしっかりと伝えられるような議会でありたいと思っているので、こういう会のときには忌憚のない意見をいただければと思っている。本日はありがとうございました。